

ロックアウトされた研究室ドアへの掲示



当局が逆封鎖中の研究室に表現する松下



三階ベランダ窓側の研究室入口表示



屋上に出現したく永続する大学斗争>

亡くなるまでこの研究室に散策～出撃しつつ、空間性の意味を提起し続ける。1982年10月のA 4 3 0再占拠闘争に業を煮やした当局は、彼が11月の岡山大学祭連続シンポジウムに参加している間に、木材～鉄板～鉄格子で研究室を何重にも逆封鎖し、出入りを阻止しようとした。松下は旧B109（当時110）教室を拠点とする在校生を含む拡大自主講座を12月から翌年にかけて開催する一方、京大教養部A 3 6 7独語資料室問題や日本基督教団（現日本キリスト教団）の教師検定問題にも共闘しながら、1983年秋、再び、N度目の研究室再占拠闘争を展開した。当局は「立入禁止通告～告訴の警告」等の恫喝を繰り返すが、松下は自由だった。



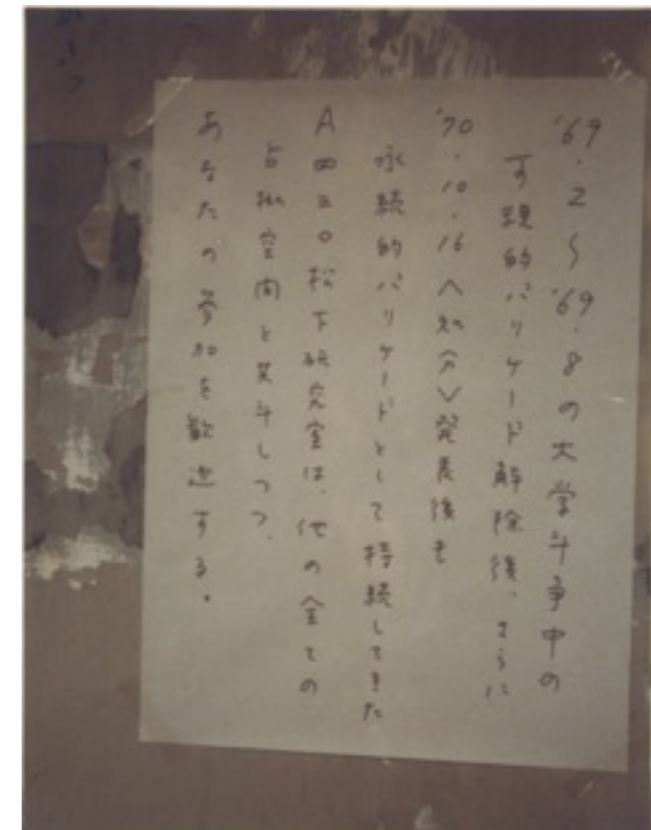
自主講座B109の表示（当時110に改名）



再占拠直後の研究室室内



研究室窓下から六甲山方向に発する { { { ...



ドアにはられたバリケードへの招待



ベランダ側から見た研究室の窓



窓に部屋の内側から掲示されている紙片



ベランダ脇の柱に記された宣言